

1 前回のおさらい

1) 需要供給の法則の考え方、2) 経済主体、3) 消費の理論、4) 生産の理論、5) 需要供給の理論 ここまで一通り終了しました。

2 本日の内容「市場の失敗」

3-1 市場の失敗

- ①市場の失敗という言葉
- ②市場の失敗の代表的なケース4つ…独占・寡占、公共財、外部性、情報の非対称性

3-2 独占

- ①独占とは 3つの理由
- ②独占企業の価格決定と死荷重
- ③独占に対する公共政策

3-3 独占的競争

3つの条件

3-4 寡占とゲーム理論

- ①寡占市場とカルテル
- ②カルテルの脆弱性とゲーム理論
- ③寡占価格の下方硬直性

3-5 公共財の問題

- ①公共財の定義 非排除性と非競合性
- ②公共財の過少供給と政府の役割
- ③公共財とフリーライダー問題
- ④共有地問題

3-6 外部性の問題

- ①二つの外部性 外部経済と外部不経済
- ②外部性への対応

3-7 情報の非対称性

- ①情報の非対称性
- ②情報の非対称性が引き起こす事例
- ③情報の非対称性を引き起こさない対応
- ④モラルハザード

3-8 まとめと補足（効率と公正に関して）

- ①経済理論の射程
- ②残された問題 厚生経済学の第二原理に関する資源配分問題

3 本日の議論

埜先生の授業案を巡って

効率と公正の考え方と授業への応用

1 現在までの活動とこれからの活動

- ・新井が授業プリント作成、授業実施、生徒の回答は未収（期末考査小論文）
- ・学会自由報告にエントリー
- ・杉田、金子の実践授業

2 新井プリントの問題点

①公債発行と負担問題（リカードの中立性定理に関する理解）

命題1：マクロ的に見れば、公債発行が後の世代に負担を先送りすることはない。

政府の借金は国民の資産である。（ゼロサムの関係）

現在の世代が国債発行の利益を受けているが、負担も現在の世代が負っている。

償還時に増税などで負担を受ける世代があるが、償還を受けるのも同じ世代であり、同世代での受益と負担である。

命題1（補足）：この命題が成り立つのは、次の四つの前提が成り立つとき。i 流動性制約がない完全な資本市場の存在、ii 非攪乱的な課税がおこなわれること、iii 将来の財政政策や完全な予想が可能、iv 自発的な遺産の調整が行われること（井堀）

命題2：赤字公債が累積されて財政破綻がおこるかどうかはわからない。

基本的には日本政府に対する信用度の問題。国債の借り換えができるかどうか。

命題3：財政破綻がもし発生する場合、国債金利は上昇し、国債価格は暴落する。

財政破綻しても国債は償還される。しかし、その時に通貨価値が下落していれば単なる紙屑である。（戦時国債の例を見よ）

②世代間格差の問題

命題4：世代間会計の考え方から見ると世代格差は存在する。

特に年金制度ではそれが言える。負担と給付の不平等が存在する。特に、現在の賦課方式ではそれが言える。

命題5：世代間格差は人口減少社会で先鋭化する。

社会保障の持続性が保証されない。

少なくなっている年金加入者と年金拠出率があり、増加している高齢者は少ない加入者から所得移転を受けている。

命題6：現在の社会保障に関しては、課題を先送りしているだけである。

高齢世代は給付を減らしていない。負担世代は負担を税や社会保障費で負担しているのではなく国債の発行で先送りしているだけである。

命題7：高齢化で貯蓄率が減っている中で国債消化の持続性、つまり社会保障制度の持続性はあやうくなっている。

国債の原資となるのは国内の貯蓄で、貯蓄率が減少している。持続可能性が崩れている。

民間の貯蓄＋赤字国債の発行額＝民間の貯蓄－マイナス政府の貯蓄額

民間の貯蓄＋政府の貯蓄＝国内の貯蓄額

【参考文献】小塩隆士『効率と公正を問う』、井堀利宏『ゼミナール公共経済入門』

実施：2016年6月25日（土）10：00～12：30 ネットワーク東京事務室

参加者：新井（小石川中等）、杉田（津田沼）、金子（初声分校）、塙（府中東）、吉田（府中東）、滝沢（筑波大院）計6名

主な内容：今回もテキストとレジュメに沿って、新井のレクチャー、質疑、参加者での討論という流れで行いました。テーマは「市場の失敗」です。

まず市場の失敗の定義を確認しました。この言葉が誤解されて流布されている状況なども紹介しました。そのうえで、市場の失敗には四つの代表的なケースがあること、それらはしいて分類すると市場競争の内部から発生するものと、外部から発生するものに分けられることなどが紹介されました。

次に、失敗の第一ケースである、独占、独占的競争、寡占という完全競争市場からの乖離したケースを検討しました。ここでは、独占は市場価格や供給量を制限することで、市場の効率性（余剰最大）を阻害し、死荷重をもたらすことを確認しました。死荷重に関しては、その理解が直感的には難しいので、図示する、数値例で確認するなどが必要との意見もだされました。また、このような概念をどう教えるか、どこまで教える必要があるかに関しても検討されました。

新井からは、独占的競争の事例の理解が現代の市場経済理解にはポイントになること、様々な価格政策（差別価格、二重価格など）の事例を通してリアルな価格理解ができる可能性があることが示唆されました。また、独占的競争の状況下では、教科書に書かれている管理価格や価格の下方硬直性は見られなくなっていることも指摘されました。

失敗の第二ケースである公共財の問題では、その定義から準公共財（クラブ財、共有地）の理解が教育上大事になるという指摘がされました。また、フリーライダー問題は現代的なディベートテーマになりうるという話もできました。

失敗第三ケースである外部性の問題はかなりの理解が進んでいるので、簡単な説明に終わりました。

最後の第四ケースの情報の非対称性に関しては、その概念が指導要領に登場した背景、情報の非対称性が引き起こす問題、特にレモンの市場、モラルハザードに話題が行きました。情報の非対称性の対策としてのシグナリングでは、労働市場における学閥効果なども話題になりました。

最後に、経済理論の射程、具体と抽象の往復問題が討論されました。社会科教育における森分理論と藤井理論の差、概念の獲得の仕方、また概念の転移の可能性などに関する話題も登場しました。ともかく、教師が面白いと思わなければ生徒は振り向かないこと、PISAの問題でも共感から分析にという方向性が見えるのではないかなど、経済学と教科教育学の関連の問題を討論しました。

総じて、本日も、経済学の理解に必要な説明に加えて、教科書の記述、社会科教育における認知、理解の問題など密度の濃い教室が展開されたといえるでしょう。

【次回寺子屋】7月26日（火）14：00～ 場所は東京事務室、テーマ「マクロ経済学の基礎理論」 なお、10：00～伝統継承の会

実施：6月25日（土）14：30～16：30 参加：新井、杉田、金子

主な内容：シルバー民主主義打倒陰謀会議

1 新井から、レジュメに即して新井プリントの問題点と今後を説明。

問題点では、公債発行と負担問題（リカードの中立性定理）の理解が説明される。結論、「マクロ的に見れば、公債発行がのちの世代に負担を先送りすることはない」。これはいくつかの条件が成り立つときのみ成立する。しかがって、この命題を理解することが難しいのは、直感とは異なる結論を受け入れることの難しさがあることが確認された。

リカードの中立命題が成り立っても、「世代間会計の考え方から見ると世代格差は存在する」ことも確認された。ただし、プリントの何人かの学者、エコノミストの推計に関してはその根拠も含めて要注意であることも合わせ確認された。

2 新井の授業の結果は、次回までにまとめて報告される。

3 杉田先生から授業構想の提示があった。

再度論点整理の提案として、以下の二つの論点が提示された。

一つは、選挙権行使時の若者対高齢者の対立構造の確認。ただし、この問題を機会費用（時間価値）で説明することは可能かどうか再確認の必要ありという。

もう一つは、「だれが猫に鈴をつけるか」という問題の確認である。これには、八代氏の指摘のなかで、高齢者の利他主義に期待するという指摘が成り立つかを再確認しておく必要があるとの提示である。また、将来世代を考える高齢者が出現するかを、厳密な制約条件のもとで考えさせる必要があるとの指摘もおこなわれた。これは現行の社会保障制度の変更問題（持続可能な社会保障制度）と関連する。さらに、世代間格差も問題だが高齢者のなかの世代内格差も問題であり、高齢者も何等かの負担をして、必要な同世代や子供に移転するようなくみを構想させないといけないのではないかという指摘もあった。

4 これらの指摘を受け、政策設計の際の、政治家のインセンティブも組み入れ、機会費用で投票行動を説明しつつ、最終的には持続可能な社会保障制度をつくるにはどんな制度（選挙、社会保障）が必要かを問う授業を組み立てるということになった。授業構想は次回持参。授業そのものは9月23日（金）午後に津田沼高校で実施予定。

3 金子先生から授業構想の提案があった。

金子先生は、ミルの『代議制民主制論』（『代議政治論』）を踏まえた、選挙でよりよい社会をつくるにはという授業である。

①選挙に行けば問題は解決するかというテーマを提示

②ミニ多数決（この時には、生徒会の予算などきちんとした政策選択をさせるとよいとの指摘在り）を何回かくりかえし、そこから多数決をやっても無駄という声を出させる。

③みんなの不満を踏まえて、投票がよりよい社会をつくらない場合を確認する。そのうえで、最初の選挙に行けば問題が解決するための制度や行動に結び付ける。

5 金子先生の授業は未定。次回までに同じく授業構想持参。

6 今後の事務手続きなど

学会エントリーは新井が行う。報告要旨などは三人で協議しつつ新井がまとめる。学会発表の分担：総括（新井）→選挙の根本（金子）→シルバー民主主義問題（杉田）